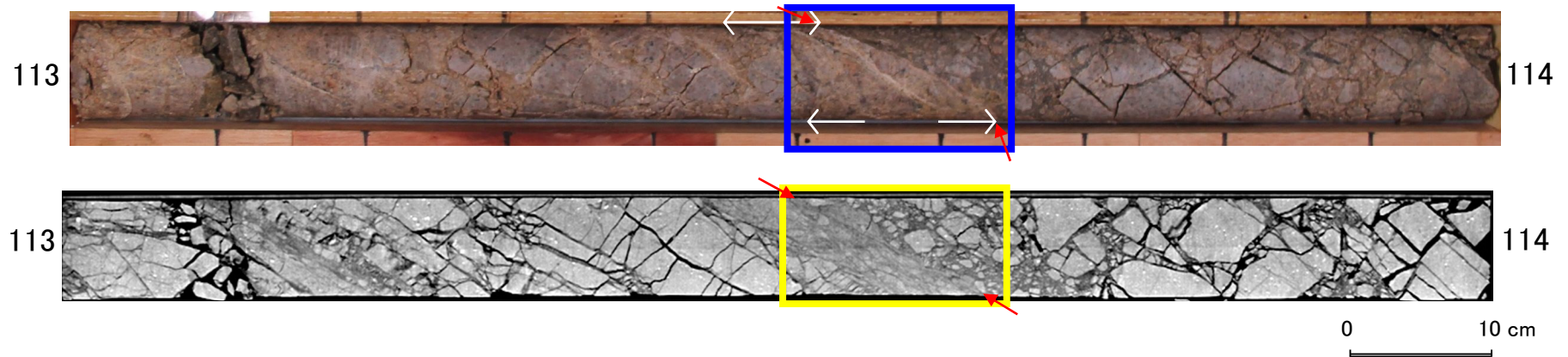


最新活動面認定根拠(H27-B-1 深度113.51~113.60m)

53のエビデンス (最新活動面)

- ・肉眼観察では、最新活動面が深度113.56mか深度113.60mかを判断できないため、CT画像を利用した。
- ・CT画像では、より直線的であることから、深度113.60mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真

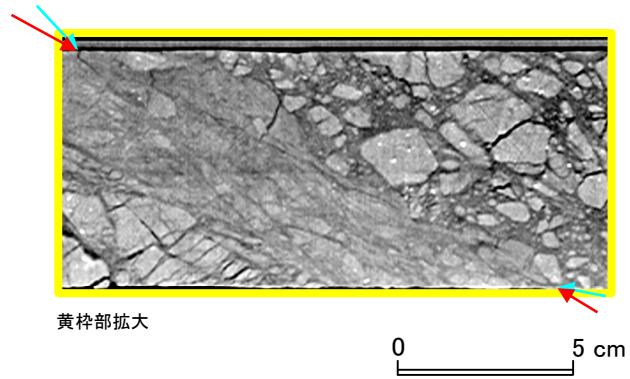
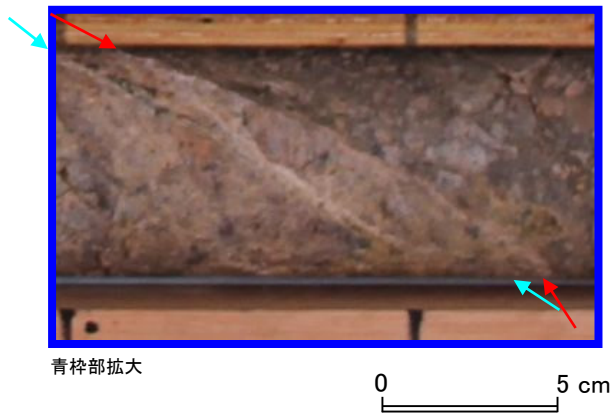


凡例

← → 破碎部範囲*

※:写真上は白色で記載

最新活動面



凡例

最新活動面

最新活動面の候補とした面

断層ガウジ・断層角礫の幅算出資料(H27-B-1 深度113.51~113.60m) 54のエビデンス (ガウジ幅)

・実測した断層ガウジの幅は0.1cmである。

コア写真



凡例
断層ガウジ ← → 破砕部範囲*
※:写真上は白色で記載



青枠部拡大

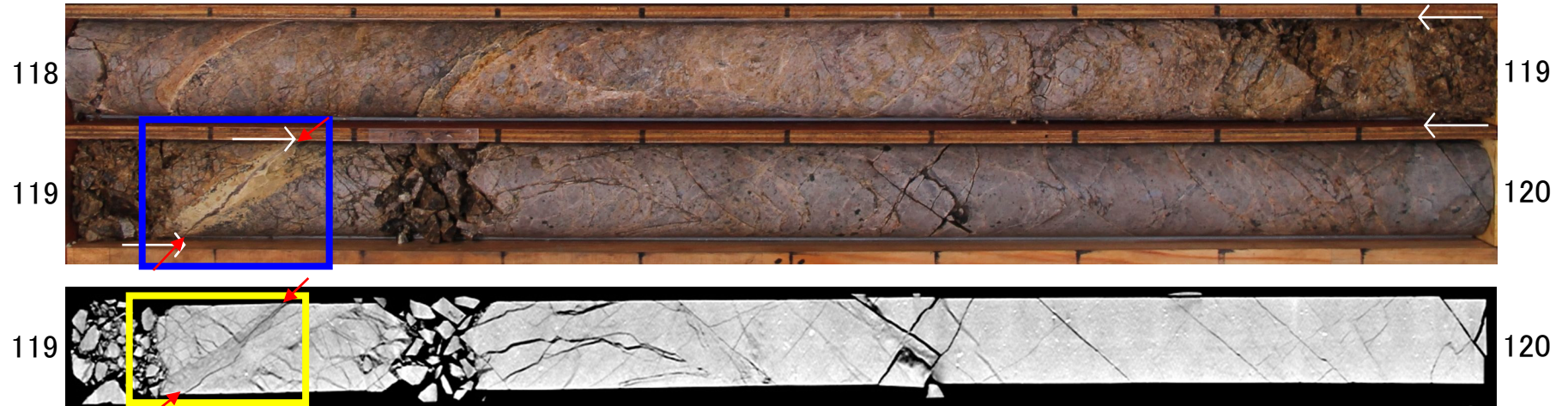
0 5 cm

最新活動面認定根拠(H27-B-1 深度118.94~119.12m)

55のエビデンス (最新活動面)

- ・肉眼観察では、最新活動面が浅黄色細粒部の上端(深度119.10m)か黒色粘土脈(深度119.12m)かを判断できないため、CT画像を利用した。
- ・CT画像では、より直線的であることから、深度119.12mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真



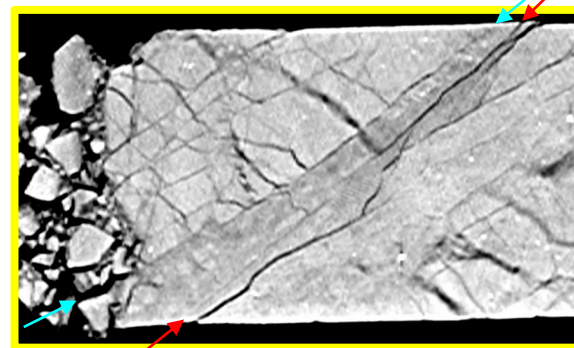
凡例
 ← 破碎部範囲※
 → 破碎部範囲※
 ※:写真上は白色で記載
 ↓ 最新活動面

0 10 cm



青枠部拡大

0 5 cm

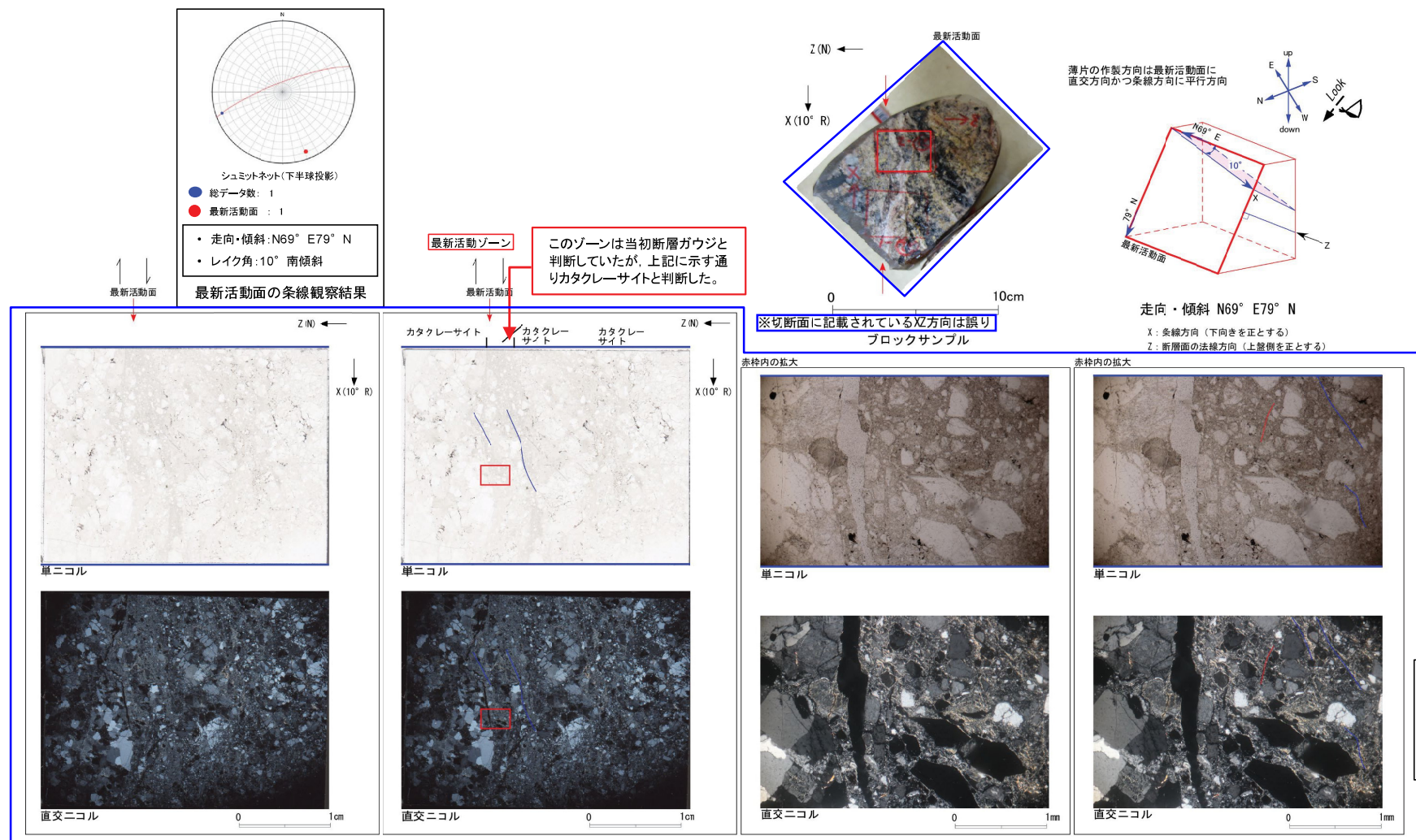


黄枠部拡大

0 5 cm

凡例
 ↓ 最新活動面
 ↓ 最新活動面の候補とした面

- H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面 (深度35.40m)の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
- 最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
 - (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - (カタクレーサイト) 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。
 - (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
 - (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
 - (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。

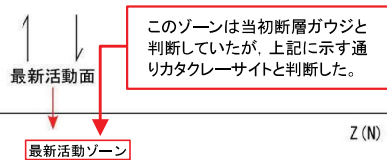


H27-B-2 深度35.36～35.46m (2/2)

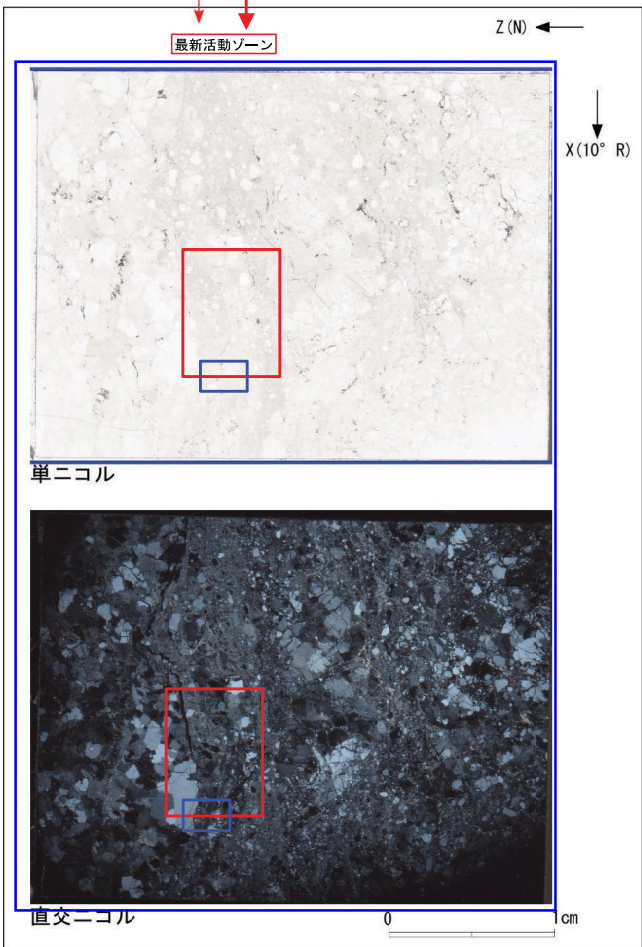
青枠：修正箇所

58のエビデンス（薄片観察結果）（2/2）

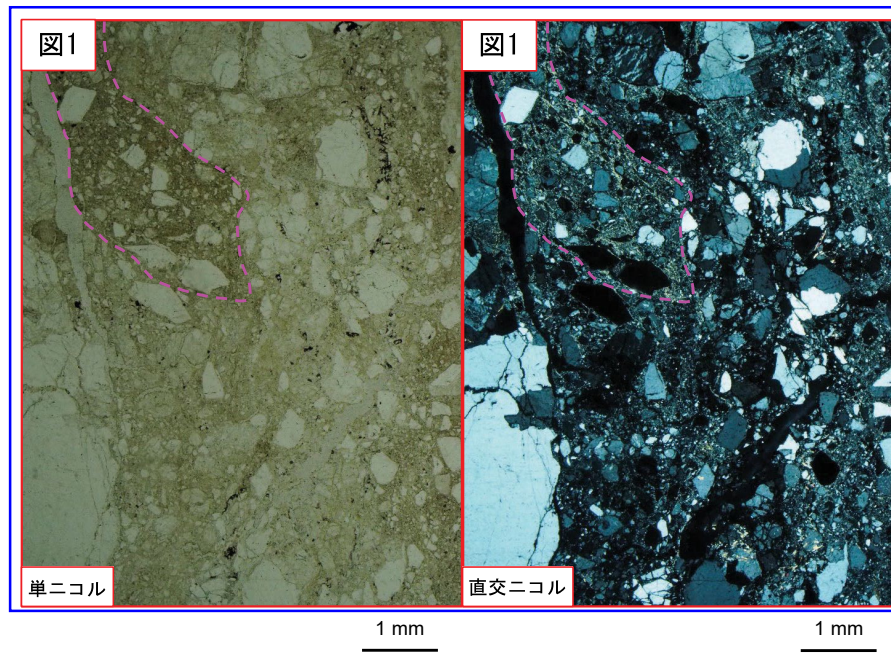
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。（図1）
 - 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局部的である。（図1）
 - 多様な粒径の岩片が多く認められる。（図2）
 - 角ばった岩片が多い。（図2）
 - ジグソー状の角礫群が認められる。（図2）



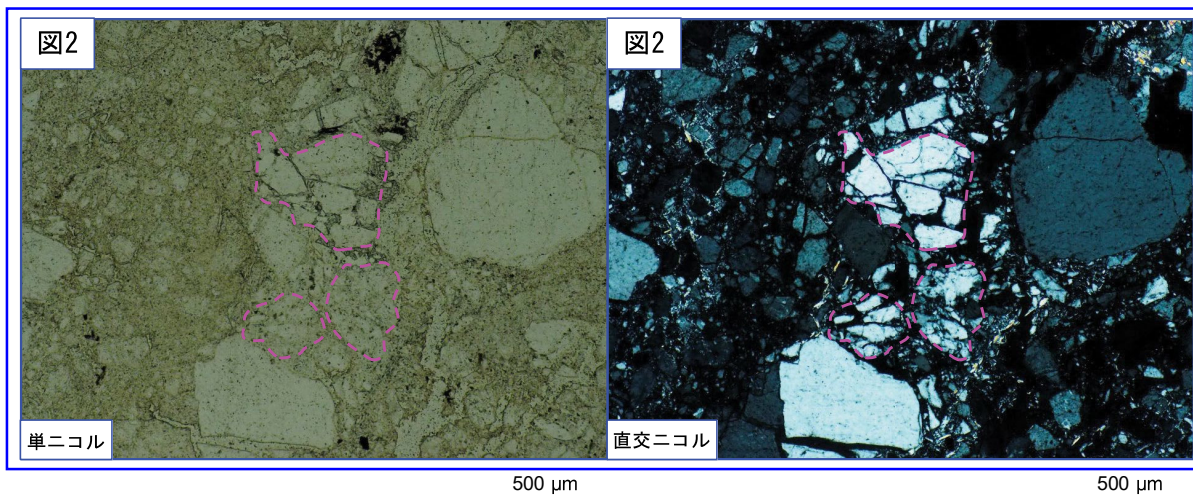
このゾーンは当初断層ガウジと判断していたが、上記に示す通りカタクレーサイトと判断した。



凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト



破線は粘土状部の分布範囲を示す。



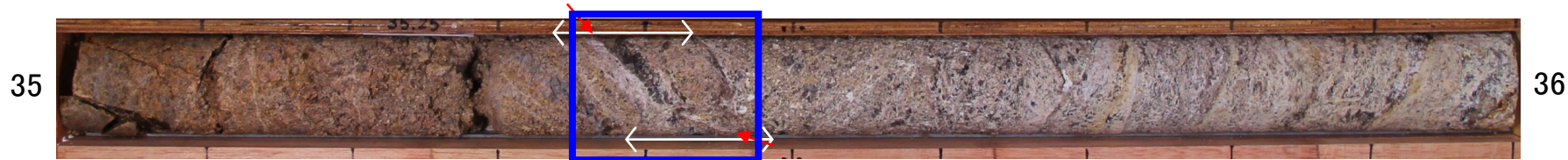
破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

最新活動面認定根拠(H27-B-2 深度35.36~35.46m)

59のエビデンス (最新活動面)

・細粒部を伴い最も直線的であることから、深度35.40mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真



凡例
← → 破碎部範囲※
※:写真上は白色で記載
最新活動面



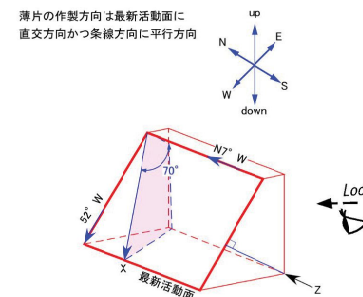
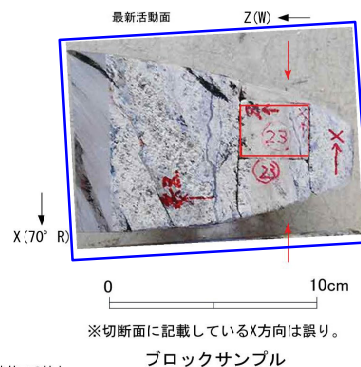
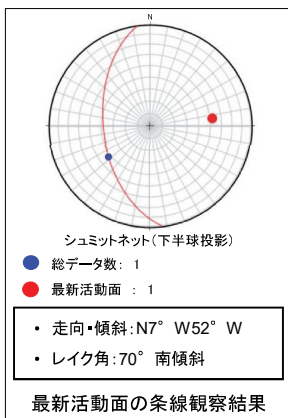
凡例
最新活動面

青枠部拡大

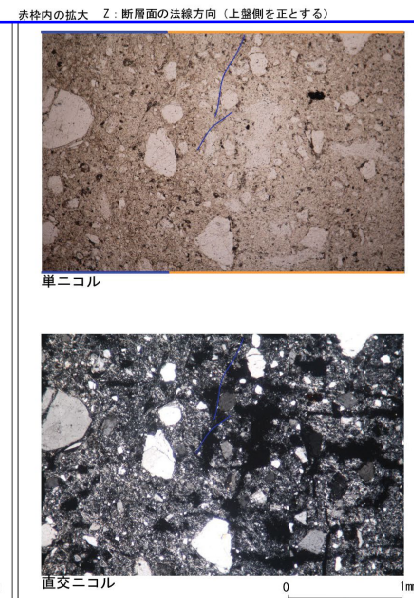
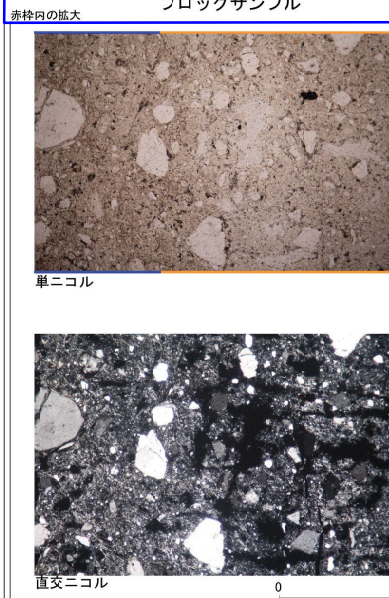
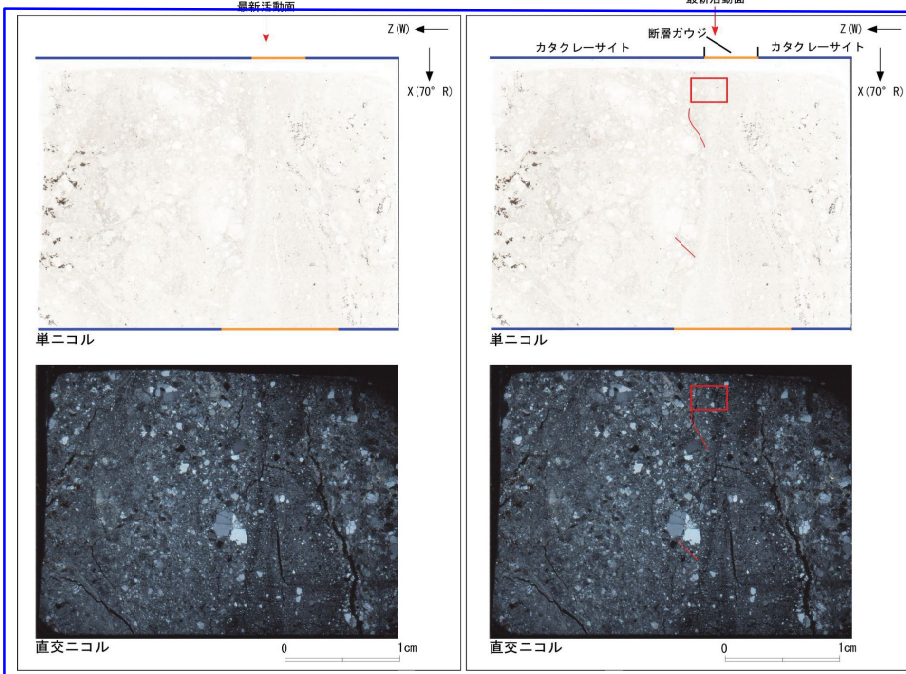
0 5 cm

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度35.73m)の変位センスは、正断層成分が卓越する。
 ・最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。

- (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
- (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。
- (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

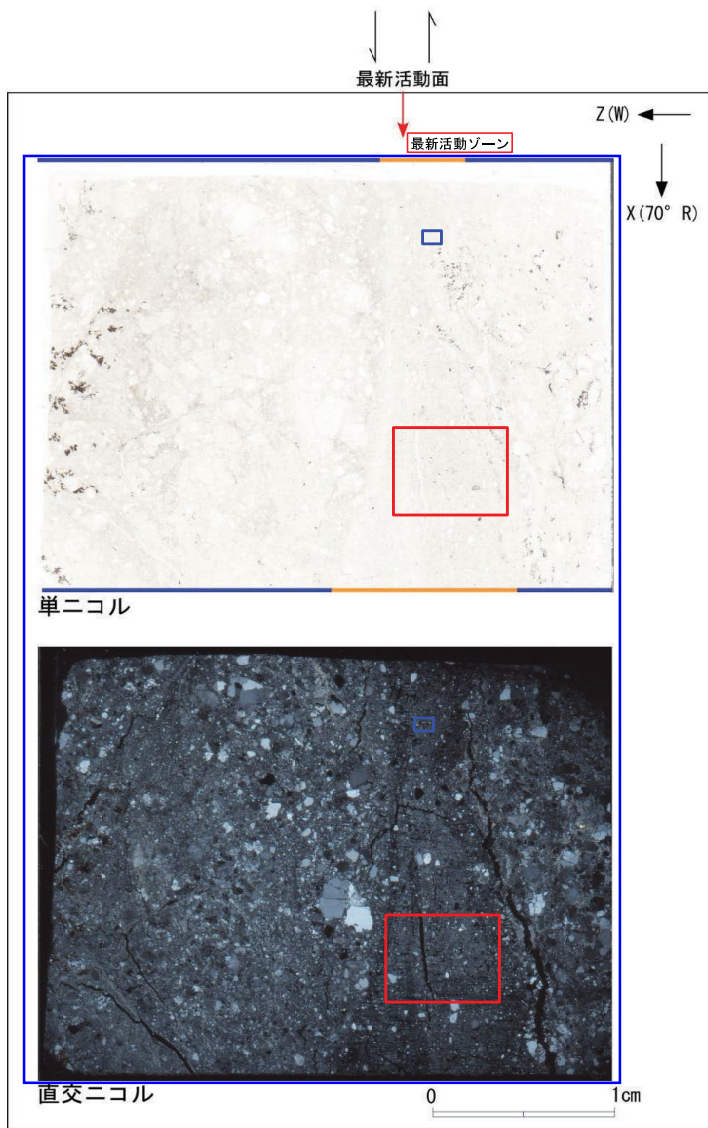


走向・傾斜 N7° W52° W
 X: 条線方向 (下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向 (上盤側を正とする)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

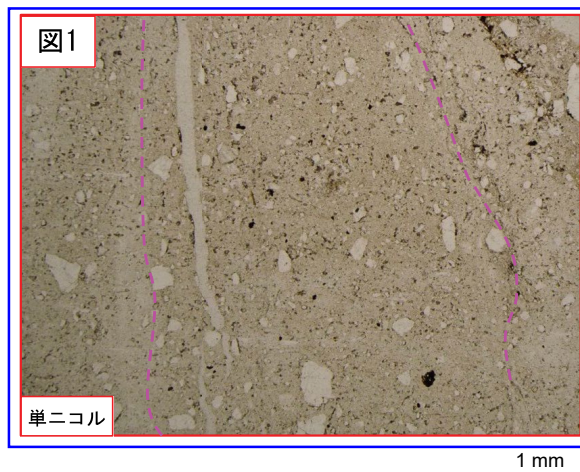
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図1)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)



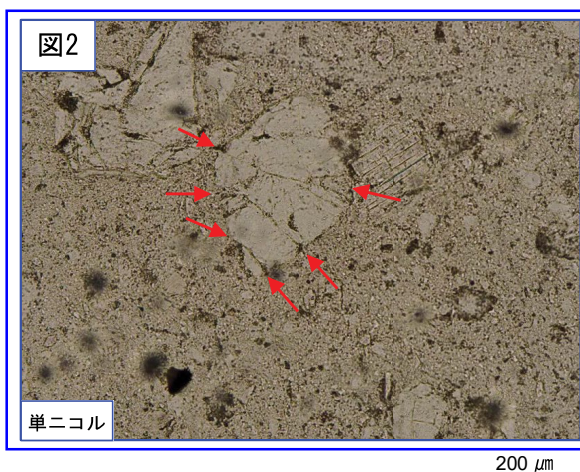
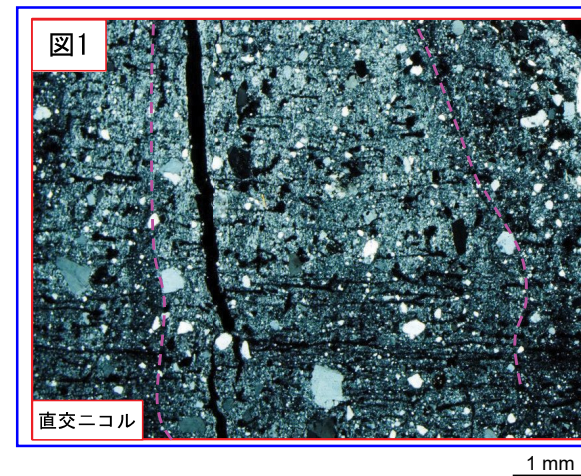
単ニコル

直交ニコル

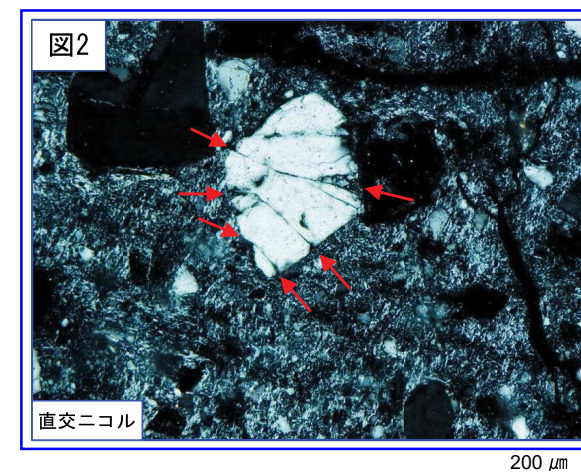
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト



破線は帯状で直線的な範囲を示す。



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。

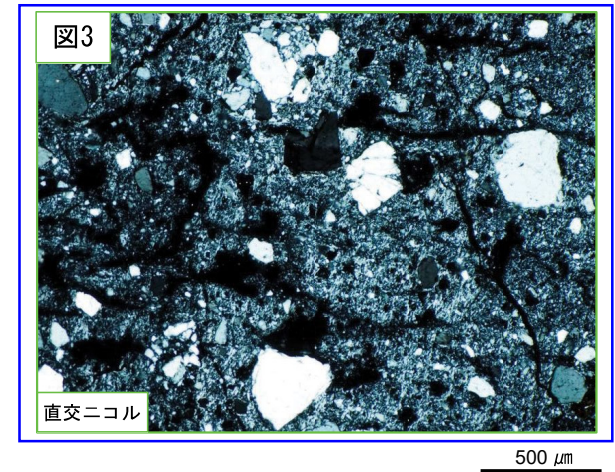
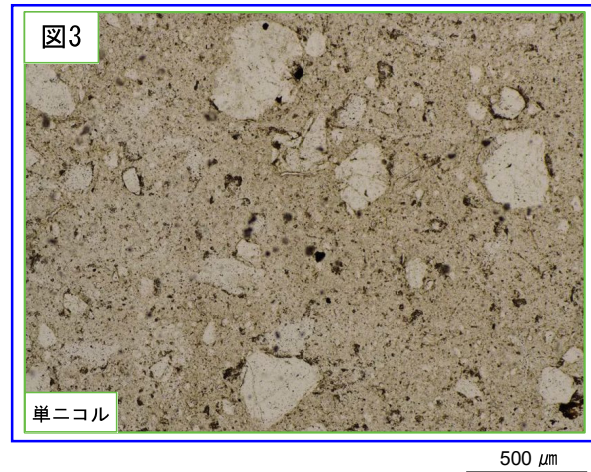
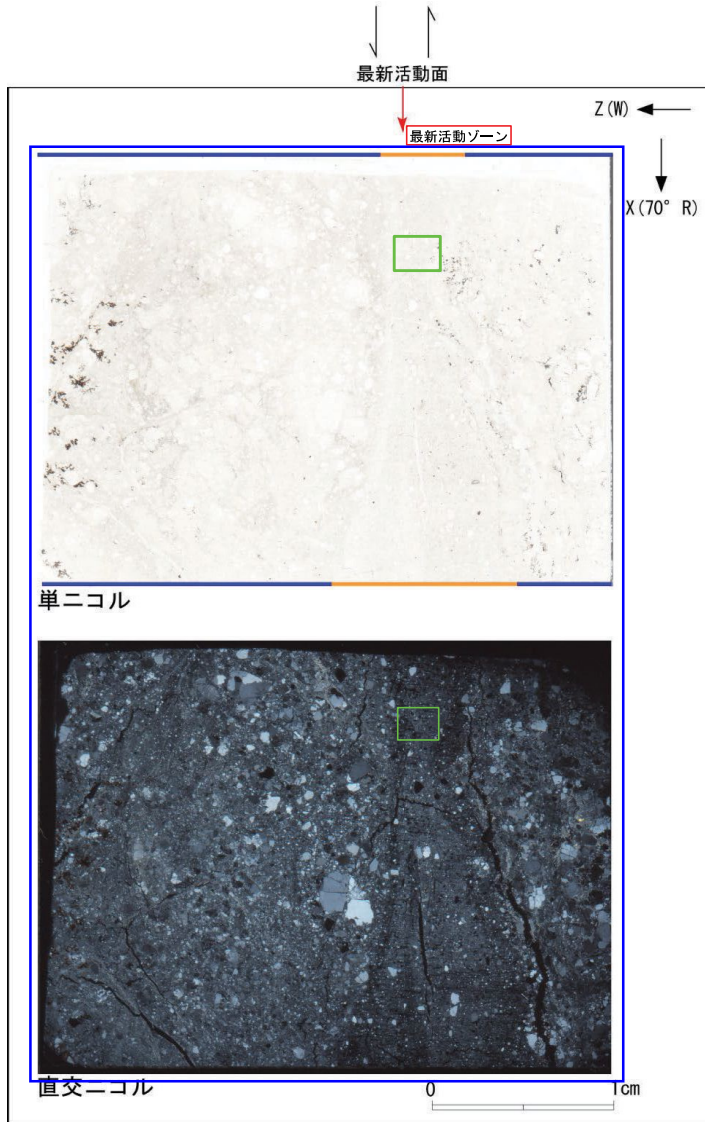


H27-B-2 深度35.68~35.73m (3/3)

青枠：修正箇所

61のエビデンス (薄片観察結果) (3/3)

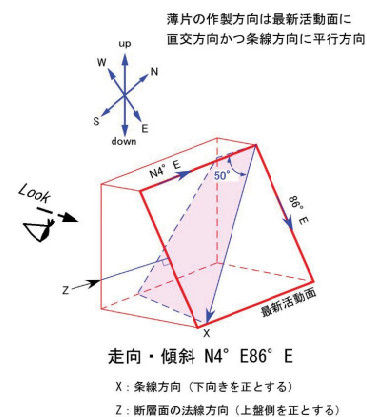
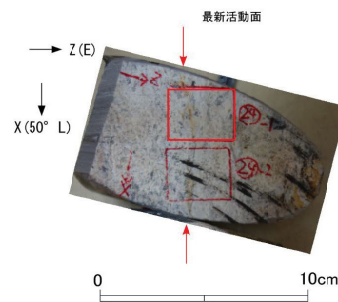
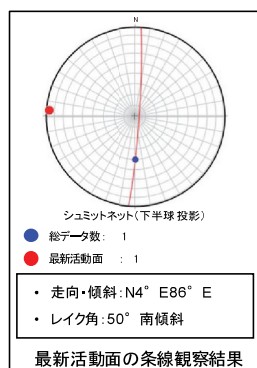
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 岩片は少ない。(図3)
 - 丸みを帯びている岩片が多い。(図3)



・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度35.92m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。

・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。

- (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- (カタクレーサイト) 組織は漸移的に変化する。
- (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
- (カタクレーサイト) 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
- (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



ブロックサンプル

単ニコル

単ニコル

単ニコル

単ニコル

単ニコル

単ニコル

単ニコル

単ニコル

単ニコル

単ニコル

単ニコル

単ニコル

単ニコル

赤枠内の拡大

赤枠内の拡大

直交ニコル

直交ニコル

直交ニコル

直交ニコル

直交ニコル

直交ニコル

直交ニコル

直交ニコル

直交ニコル

直交ニコル

直交ニコル

直交ニコル

直交ニコル

直交ニコル

直交ニコル

直交ニコル

直交ニコル

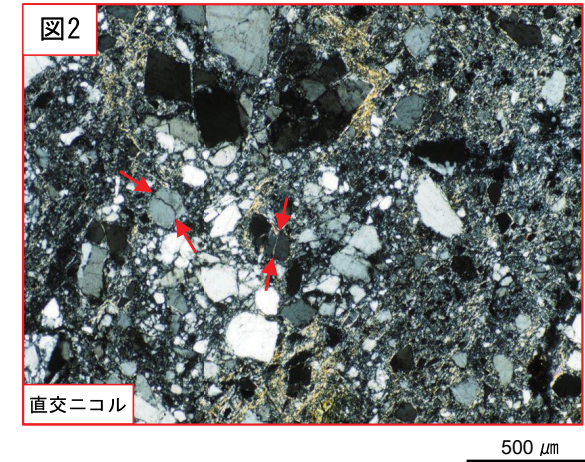
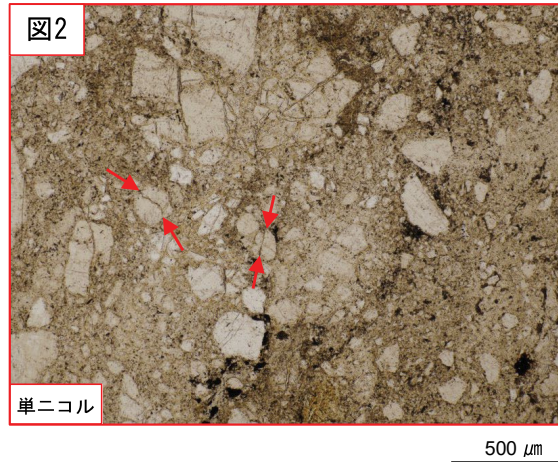
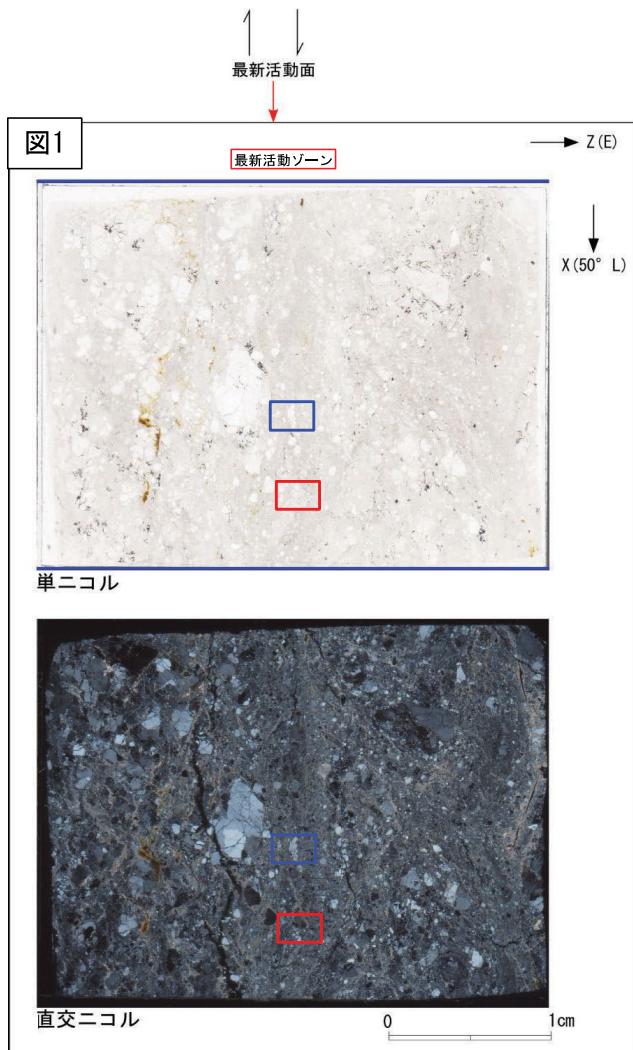
直交ニコル

直交ニコル

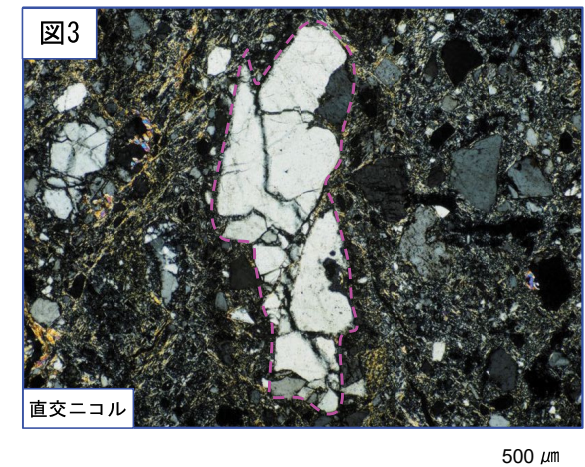
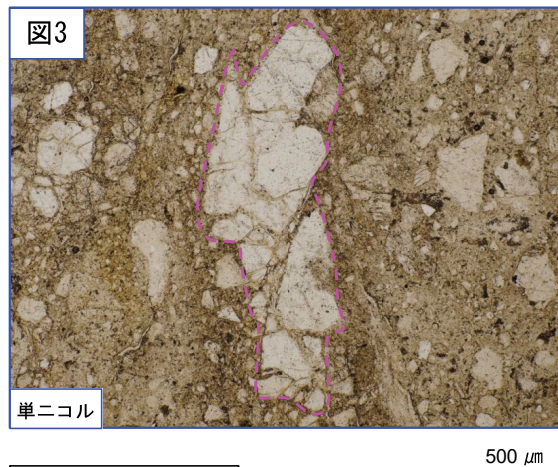
直交ニコル

- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図2, 3)
- 組織は漸移的に変化する。(図1)
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。(図2, 3)
- 角ばった岩片が多い。(図2, 3)
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図2)
- ジグソー状の角礫群が認められる。(図3)



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す。



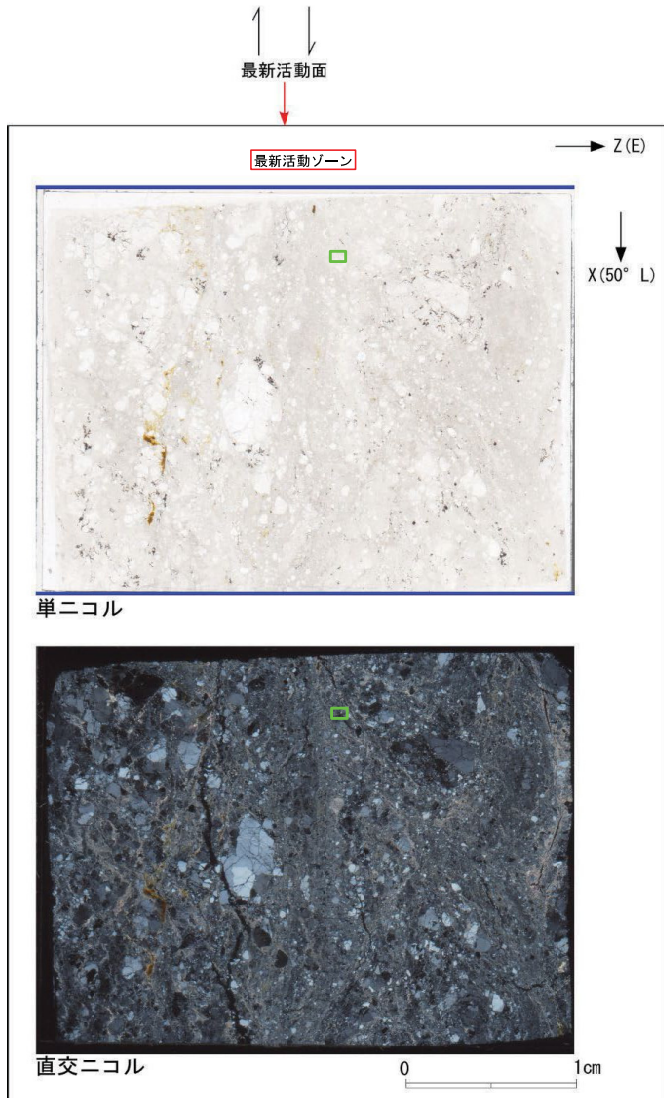
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト

破線はジグソー状の角礫群の範囲を示す。

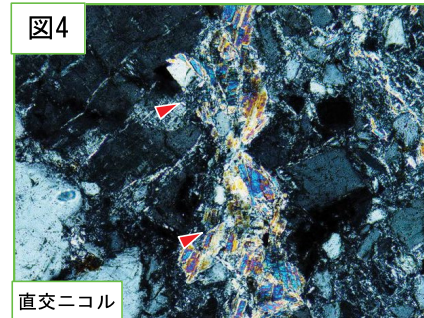
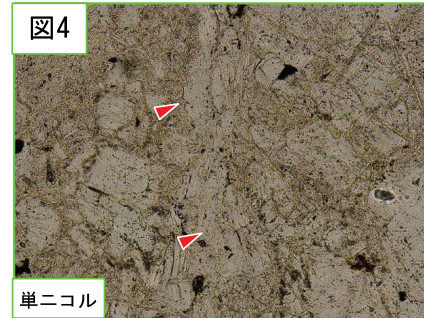
H27-B-2 深度35.92~35.95m (3/3)

62のエビデンス (変位センス) (3/3)

・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 > 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。(図4)



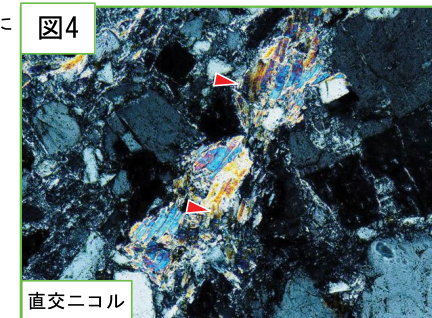
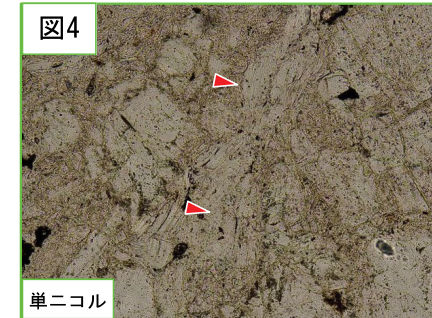
凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト



赤矢印は屈曲箇所を示す。 50 μm



ステージを反時計回りに約25度回転



赤矢印は屈曲箇所を示す。 50 μm

・実測した断層ガウジの幅は0.1cmである。

コア写真



凡例

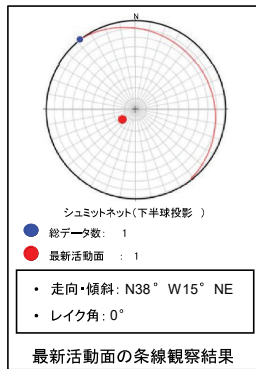
断層ガウジ ← → 破碎部範囲※
※:写真上は白色で記載



青枠部拡大

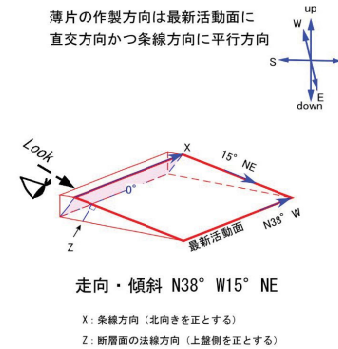
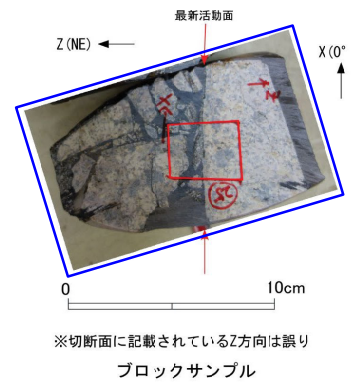
0 5 cm

- ・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度48.12m)の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
 - (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 - (カタクレーサイト) 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。
 - (カタクレーサイト) 岩片の粒径は漸移的に変化する。
 - (カタクレーサイト) 多様な粒径の岩片が多く認められる。
 - (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。



このゾーンは当初断層ガウジと判断していたが、上記に示す通りカタクレーサイトと判断した。

最新活動ゾーン



最新活動面

最新活動面

花崗斑岩 | カタクレーサイト | 花崗斑岩
 Z (NE) ← X (0°) ↑
 単ニコル
 直交ニコル
 0 1cm

花崗斑岩 | カタクレーサイト | 花崗斑岩
 Z (NE) ← X (0°) ↑
 単ニコル
 直交ニコル
 0 1cm

赤枠内の拡大
 単ニコル
 直交ニコル
 0 1mm

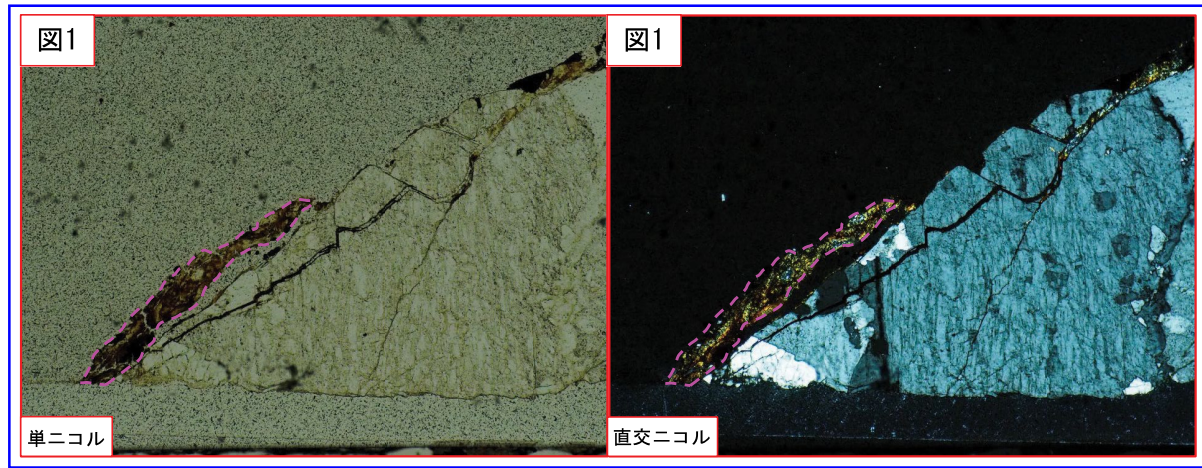
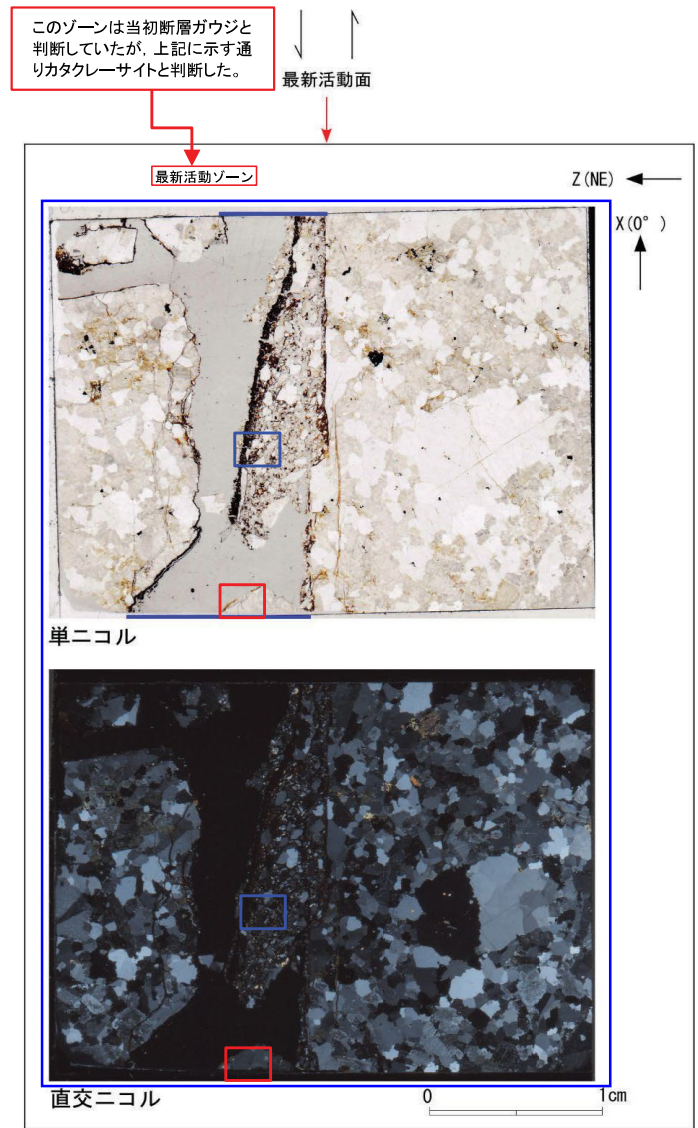
赤枠内の拡大
 単ニコル
 直交ニコル
 0 1mm

- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

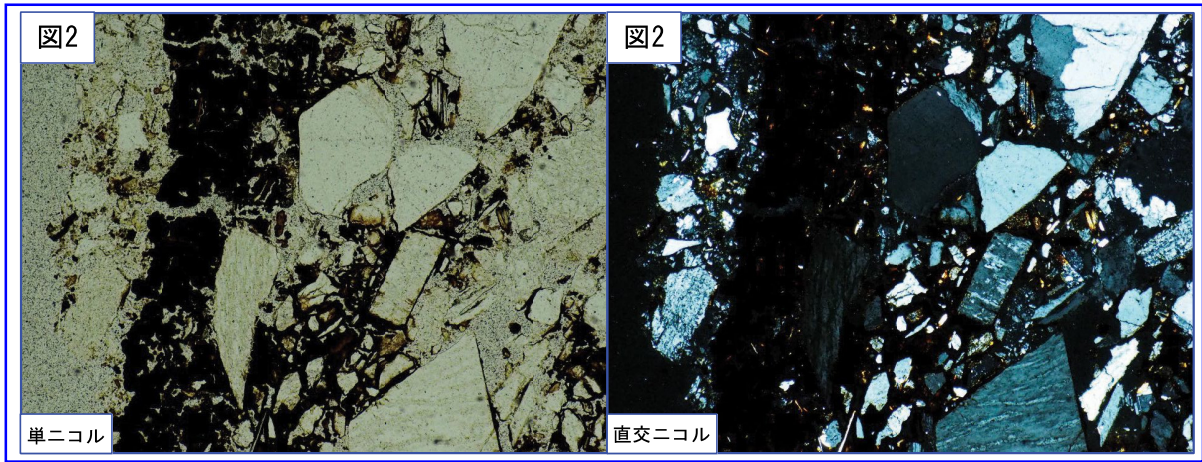
H27-B-2 深度48.08~48.12m (2/3)

青枠：修正箇所 64のエビデンス（薄片観察結果）（2/3）

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。（図1）
 - 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は局所的である。（図1）
 - 多様な粒径の岩片が多く認められる。（図2）
 - 角ばった岩片が多い。（図2）



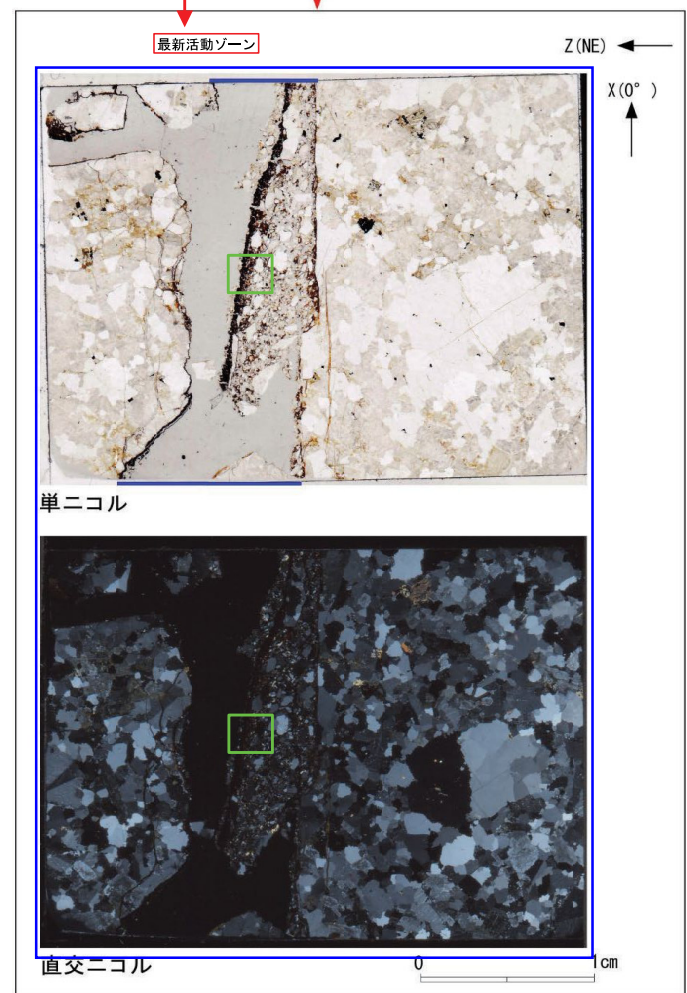
破線は粘土状部の分布範囲を示す。



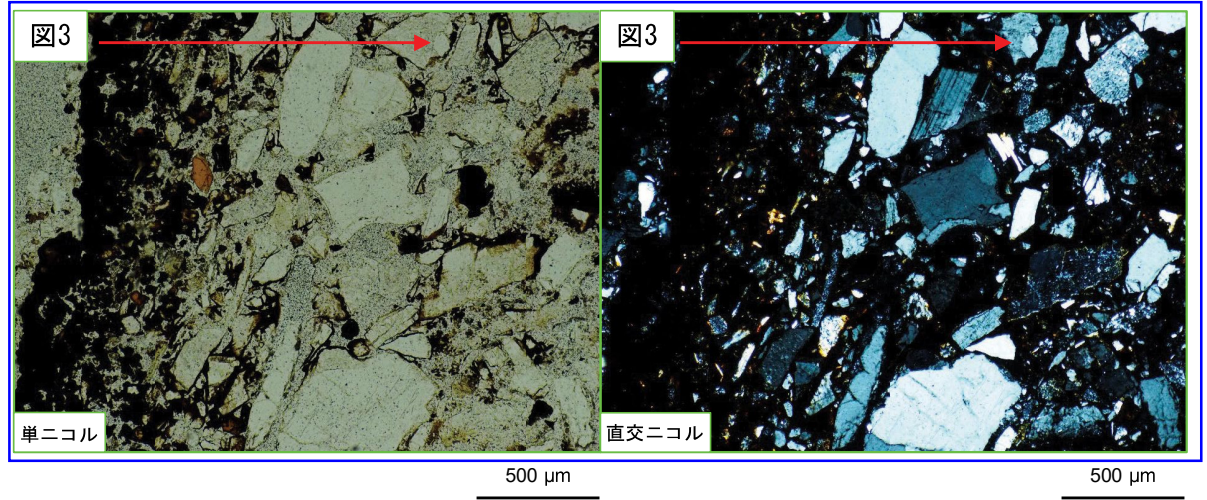
凡例
 — 断層ガウジ
 — カタクレーサイト

・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 > 岩片の粒径は漸移的に変化する。(図3)

このゾーンは当初断層ガウジと判断していたが、上記に示す通りカタクレーサイトと判断した。



凡例
 — 断層ガウジ
 — カタクレーサイト



赤矢印：岩片の粒径が漸移的に大きくなる。

赤矢印：岩片の粒径が漸移的に大きくなる。

最新活動面認定根拠(H27-B-2 深度60.26~60.69m)

65のエビデンス (最新活動面)

・波打つが、破碎部範囲内では細粒部を伴い最も直線的であることから、深度60.59mのせん断面を最新活動面に認定した。

コア写真



凡例
← → 破碎部範囲※
※:写真上は白色で記載
最新活動面



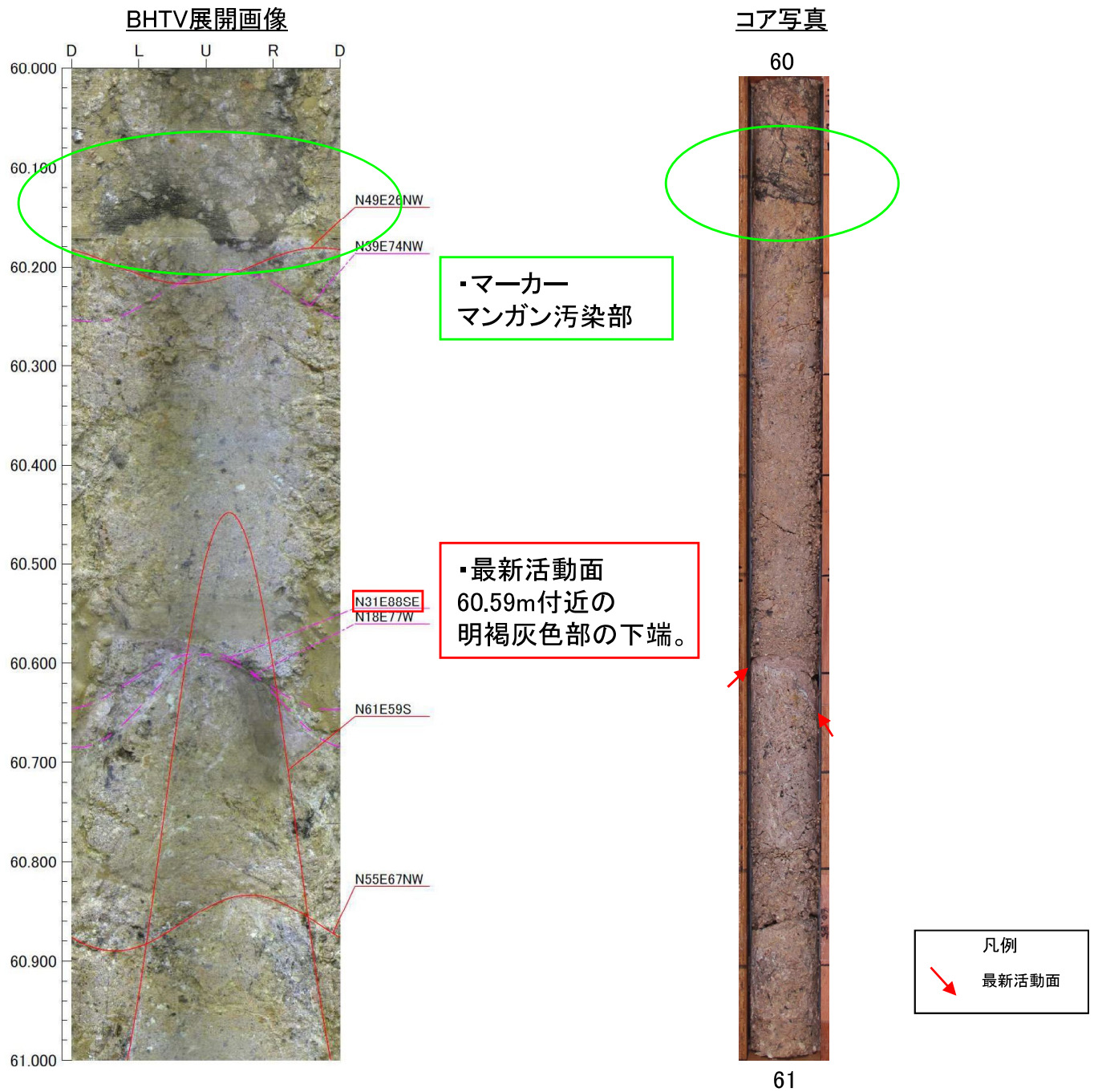
凡例
最新活動面

青枠部拡大

0 5 cm

ボアホールカメラ展開画像との対比結果 (H27-B-2 深度60.26~60.69m) 66のエビデンス (走向・傾斜)

・ H27-B-2 深度60.26~60.69mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜はN31° E88° SEである。



条線観察結果(H27-B-2孔 深度60.59m)

67のエビデンス (条線)

H27-B-2孔 深度60.59mの断層面の走向・傾斜はN31° E88° SEであり, 75Lの条線が認められる。

コア写真

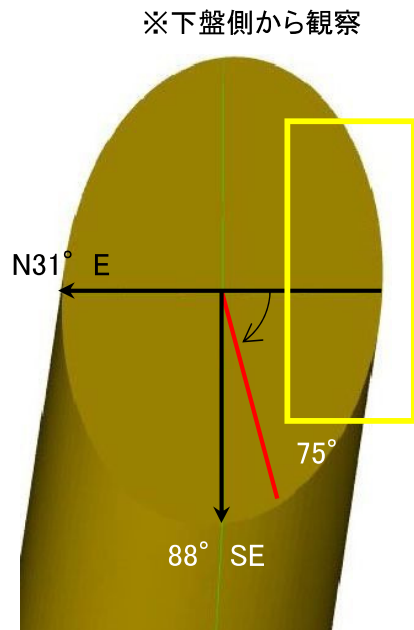


凡例

← 条線観察位置
 ↔ 破碎部範囲※
 ↘ 最新活動面

※: 写真上は白色で記載

観察模式図



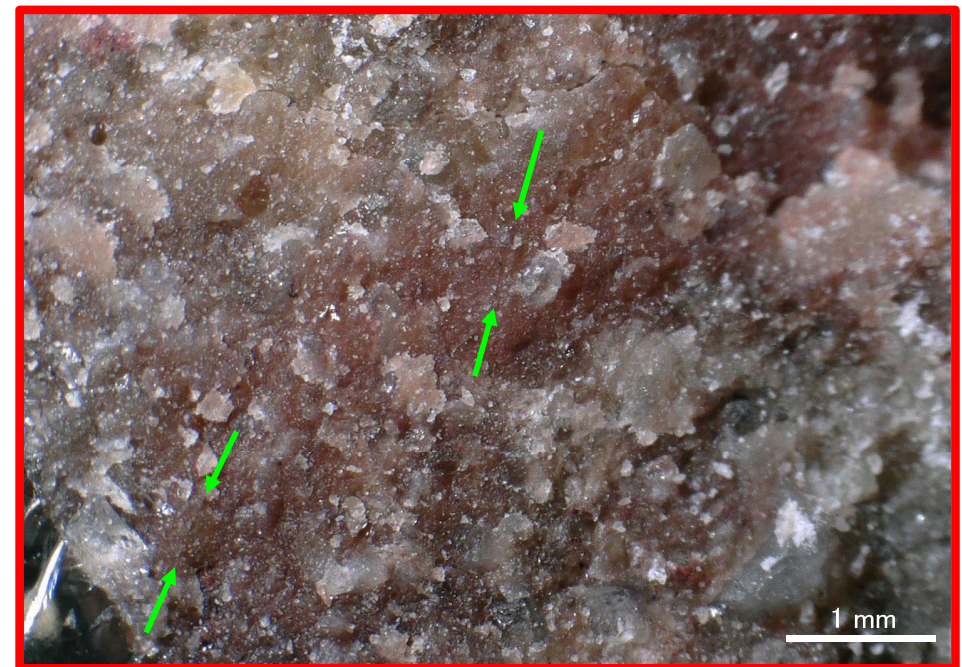
凡例

● 最新活動面
 ↘ レイク

条線観察位置拡大



赤枠内拡大



凡例

→ ← 条線方向